

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100324		
法人名	特定非営利活動法人 しあわせサービス		
事業所名	グループホーム ゆめの丘		
所在地	島根県松江市美保関町北浦624-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JgyosyoCd=3290100324-00&PrefCd=32&VersionCd=0
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号
訪問調査日	平成24年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事・食べ物などを通じて季節感のある生活の提供 プライバシー権は保ちながら、自立連帯感のある生活の提供 個を大切に生きる力を発揮し続ける生活の提供 地域との連携を大切にし、相互理解を深める生活の提供
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松江市美保関町北浦の標高8mの場所にホームがあります。周辺は山に囲まれ静かな場所にあり緑が多く森林浴として楽しむこともできます。開設1年に少し満たないが理事長、管理者、職員は法人の理念に沿って日々の支援を行っておられます。防災では津波対策には高さが少し足りないが安全の確保に努められ災害では避難場所となっています。入浴には島根県内初の座位式機械浴を取り入れられ利用者の状態に合わせた支援が行われています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かかっている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につなげている 理念を掲示し、朝礼時唱和し、職員全体に共有、実践に努力している	理念は法人が作成された。毎朝朝礼で職員が唱和している。職員会議や申し送りなどで理念について話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流している 地元自治会の一員となっている 民生委員、自治会役員を通して交流	いなすみ地区の自治会に参加している。地区の保育園児の歌、踊り、中学生の職場体験などで交流を図り繋がりを大切にしている。公民館活動の参加は開所1年未満で利用者、職員の取り組みが出来上がっていないことや風邪などで不参加となった。次年度交流に努めたいと話された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしている 民生委員、自治会役員を通して認知症は特別な病気でない事を理解してもらうよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている 防災・避難訓練に活かす 地元からの協力体制を得る	24年6月、10月開催されている。今後2ヶ月に1回開催をすと話された。利用者、家族、自治会、市職員、地域包括センターの参加がある。入居状況、交流事業、防災訓練など話し合いや報告をされ事業に取り組ん	年6回開催されるよう管理者や職員で取り組まれたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる 市本庁、支所及び包括支援センターとの協力関係	支所や地域包括センター、サテライトにケア、活動状況など相談、連絡をし協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる 玄関開錠8:30~17:30 身体拘束をしないケアを職員間で、日頃より話し合っている	市の研修に参加をし職員会議等で理解できるよう努めている。職員の聞き取りでは身体拘束をしないケア、スピーチロックの理解が伺えた。訪問時言葉使いは丁寧	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている 虐待防止の研修、受講をしている 職員へ虐待になるケースなどのポイントを指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している 独居からの入所者について注意している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている 特に契約時に利用者家族の説明を徹底している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている 意見箱を設置、運営会議での家族会の意見、家族の面談	運営推進会議の意見や家族の面談で意向や希望を取り入れている。ゆめゆめ通信を2ヶ月に1回家族に郵送し行事、ボランティアとの交流、利用者の生活状況などをお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている 職員会議の結果などの意見を反映	代表者や管理者は、職員会議やミーティングで話し合い意見や提案を聞き改善に繋げている。研修参加もある。職員は代表者や管理者と話しやすく、意見も聞き入れてくれると話された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている 給与水準の引き上げ、時間外労働の抑制		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている 法人内で資格取得の講習を実施 認知症実践者研修の受講		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	している 介護現場同士の研修に活用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている 丁寧に傾聴し、あまり話がない人はこちらから話して安心を確保する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている 家族の話を否定したりせず、良く聞いて安心して信頼を得る		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている まず、大きな支援の柱を定め、関連して他のサービスを行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている 共にホームで生活する者同士の考えで接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている 家族と職員一緒に本人を支える立場としている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係の支援に努めている	友人や家族の面会が多くある。地域の理美容の方が訪問実施され、世間話などで馴染みの関係が築かれている。墓参りは家族が支援され場所の関係が途切れないようにされている。買い物は近隣にスーパーがないので境港市のスーパーに出かけ馴染みの関係作りが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている 孤立する人がないように注意、動きの遅い人を手伝ったりしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている 家族へ声かけしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	している 一人ひとりの生活歴や暮らし方を把握している	アセスメント、家族との会話の中から思いや希望、意向の把握をしている。困難な方は日常の会話や職員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	している 以前のサービス内容、生活について、本人、家族、事業所から情報収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	している 以前の生活と現在の暮らしを比較検討、把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	している 本人中心にしたケアを心掛け、現状に即した計画としている	介護計画書は更新、必要時プラン変更が行われていた。サービス担当者会議は家族、本人と共に説明が行われていた。モニタリングは3ヶ月に1回実施されていた。介護記録は介護計画書の課題のサービス内容が記載されていないことが多くあった	職員会議やミーティングで検討され介護計画書に沿った介護記録の記載や記載方法の工夫をする。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている 情報の共有を大切にしており、気づきなどの記録により、見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる 一人ひとりに応じたサービスを行っている。本人の段階に応じサービスを変更している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している 地域の交流事業などを通じ、地域資源を把握、活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している かかりつけ医は希望とし、事業所はかかりつけ医と連携を密にしている	かかりつけ医の希望がある利用者は家族が同行受診される。結果は介護記録や、職員申し送りノートに記録され職員は把握できる。協力医の定期住診があり適切な医療が受けられている。状態変化の時は職員、家族が協力し適切な医療が受けられるように支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している 入居者の状態は常に把握し、看護職と相談、対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている 入退院時の情報交換に努め、スムーズな関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる なるべく早い段階から重度化などについて家族等と話し合い、理解を得ている	入所時に重度化や終末期に向けた方針を説明し理解を得ている。法人はみとりをしない。医療が必要になったときに医療機関の対応を家族と話を。現在みとりの方はいないので職員は重度化や終末期に向けたケアの関心が薄い。	法人の方針を文章化されを家族、職員に示されたい。マニュアルを作成され支援の方法、死生観など重度化や終末期に向けた支援の研修に取り組まれたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身に付いている 救急法の講習の実施 事故対応訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている 火災・水害・地震時の避難訓練を行っている。津波にも対応する訓練を行っている。地元から協力してもらい訓練している	防災訓練、火災訓練、津波想定訓練夜間避難訓練を実施されている。地元の消防団の協力もある。備蓄は水、おかゆ、缶詰、衣類、毛布、カセットコンロ、ソーラー発電機2機など準備をし備えている。津波想定には標高8mの場所に建設され10mには満たないが通常の災害には避難場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	している 敬語で対応 氏名をきちんと呼んでいる	入浴、排泄時同姓介助を希望されたときは対応をしている。声かけに注意している。排泄時介助が必要な方はタオルなどを利用しプライバシーを損ねない対応している。接遇の研修を行い職員の理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている 本人の希望を聞いたり、自分で選んだりするようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している 入浴など声かけ都合を聞いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	している 朝、起床時に注意して支援している 化粧の支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している おやつも調理の下ごしらえ、盆拭き、食器拭きなど一緒に行っている	朝、夕食は配食業者を利用して提供している。昼食は季節の食材を使い味わってもらっていると話された。昼食はホームの職員と利用者が一緒に盛り付けやテーブル拭きなどされる。またおやつ作りをいっしょにされる。家族と外食に出かけられる方もある。昼食時職員は見守りをされ一緒に食事をされることが無かった。声かけやメニューの説明、会話も無くとても静かな味気ない食事時間だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	している 栄養は栄養士により管理し、摂取量水分量も記録して注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員毎食後、本人に応じたケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている 自立のため注意して見守りしている 声かけもしている。個室トイレを有効活用している	排泄チェック表を活用し声かけや様子を見ながら支援が行われている。各居室にトイレあり共有トイレと併用し排泄パターンや個々に沿った利用をされている。ポータブルトイレが必要な方はアセスメントを行いベッド脇に設置し適切な排泄が行われるよう支援されていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる 便秘予防のため、飲食物に工夫している 運動も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	支援している 本人に希望を聞き、入浴タイプの違う2種の浴槽を使い分けている	週2回の入浴実施。拒否の方は声かけて希望入浴、シャワー浴などが行われ個々の支援が行われている。グループホームでは島根県内初の座式機械浴を導入され状態に合わせた入浴支援が行われていた。個浴もあり座式機械浴、個浴の希望が取り入れられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している 安心して眠れるよう注意している 照明が必要な人もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている 服薬も支援と本人の状況把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している 役割、洗濯ものたたみ食事の手伝い 楽しみ、レク・行事・外出など		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している 集団で外出している	ホームの周りを職員と共に散歩される。遠足やドライブなど外出している。音楽会は家族と共に3組程外出され楽しまれた。近隣にスーパーなど出かける場所があまり無く境港市のスーパーまで希望により外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援していない 買い物目的の外出時には支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している 手紙はないが、電話のやり取りができるよう支援してる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している 居心地よく過ごせるよう配慮、季節の草花を生け花とし、果物や野菜を置物にしたりしている	玄関には鬼柚子が飾ってあり季節感が感じられました。照明は穏やかな色で安心感がありました。居間の洗面所にはさりげなく季節の小菊が花瓶に飾ってあり家庭的な雰囲気があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している 食堂、談話室で利用者同士過ごし、自室への訪問もできる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している 居室にトイレ、収納用意 使い慣れたものの持ち込みをすすめている	テレビ、テーブル、カーペット、好みの服、家族の写真などが持ち込まれ本人の希望が取り入れられていた。男性の居室を拝見したとき室内のトイレから尿臭が感じられた。立って排泄されるので汚れるため職員はよく理解をし常に掃除をしていると評された	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	している 自室内のトイレは、特に夜間安全、自立に役立つ 1階のみなので安心感がある		